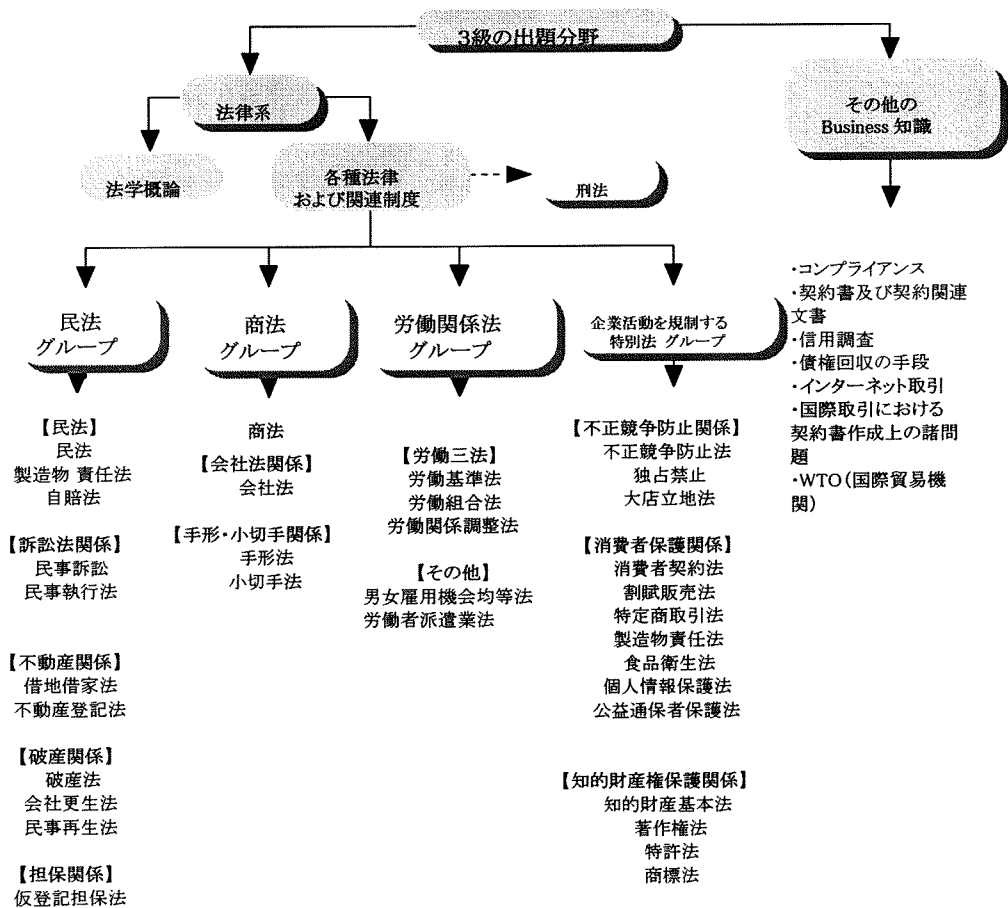


出題分野と受験対策について

1. 3 級の出題分野

3 級の出題分野については下記に示すとおり非常に多岐に渡る。従って、まともに全分野を学習するとすると一発合格は望めない。所詮、70 点で合格できる試験である。そこで、出題される部分を中心に学習していく必要がある。

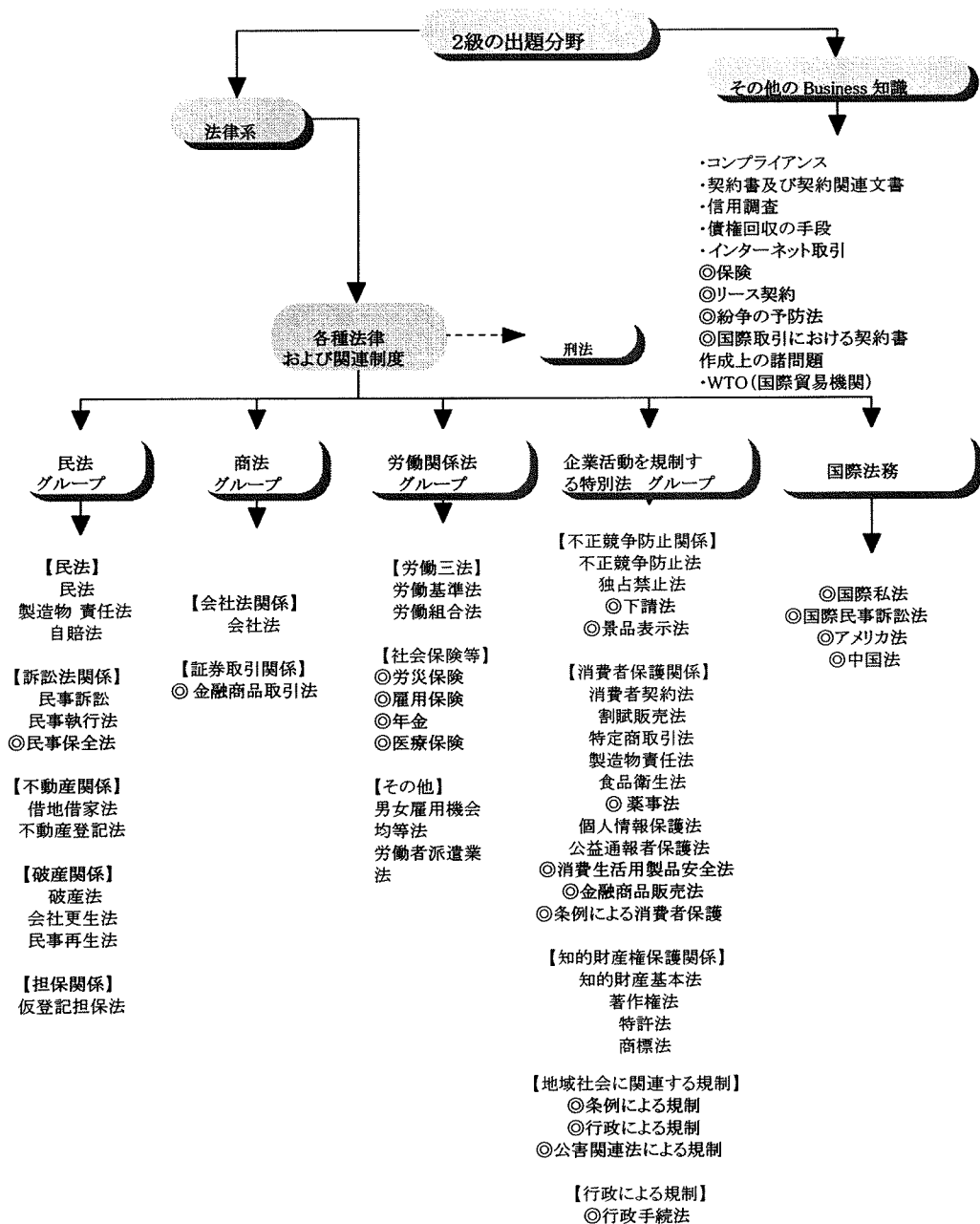
出題傾向を分析した結果、出題の中心は民法・会社法である。そして、特に、民法はきちんとマスターする必要がある。民法を学ぶと、各種の法律の基本をなす考え方を学ぶことができるからである。



※出題される法律については、代表的なものに限定

先述のように、出題分野の中心は民法・会社法であるが、この二つの法律に限定しても、出題範囲はかなり広い。しかし、實際上よく出題されるのは、民法の分野でも財産法が出題の中心であるし、商法の分野でも、会社法が出題の中心となる。

2. 2 級の出題分野



◎の部分は2級で新たに学習する部分。

2 級の試験は、3 級程度の知識をマスターしていることが前提となる。また、新たに学習する分野も多くなっている。しかし、注意しなければならないことは、3 級で既に学習済みの分野であっても、もう一步踏み込んだ知識が問われるということである。すなわち、出題者は 3 級の知識を前提として、より細かな知識（実際のビジネスで本当に役立つ知識）が出題される。

また、出題分野についても、ある程度の偏りはあるにしても、3 級と比較すると全範囲、万遍なく出題される傾向がある。

第26回試験の傾向と第27回試験への対策

1. 3級の傾向と対策

(1) 出題形式

3級の出題形式は若干複雑であるが、基本的には正誤問題である。具体的には、以下のとおりである。

第1問 ◆一問一答→1点×10問:10点

第2問 ◆文章完成→5点×2問:10点

第3問 ◆四肢択一→2点×5問:10点

第4問 ◆一問一答→1点×10問:10点

第5問 ◆文章完成→5点×2問:10点

第6問 ◆四肢択一→2点×5問:10点

第7問 ◆文章完成→5点×2問:10点

第8問 ◆一問一答→1点×10問:10点

第9問 ◆文章完成→5点×2問:10点

第10問 ◆四肢択一→2点×5問:10点

(2) 傾向

全体的に前回の試験(第25回)と比較すると、難易度が上昇したと思われる。

難易度が上昇した原因としては、①総合問題の出題があったこと、②2級レベルの知識が問われたこと③事例問題の出題が増えたことにあると思われる。

第26回試験に限らず、近時の傾向であるが、出題分野の重点が、民法・会社法から特別法の分野、特に、知的財産権関係や、消費者保護法、独占禁止法に移りつつある。

(3) 対策

1. まず、一番有効な対策は、3・2級を同時受験することである。

2. 次に、3級のみ受験するのであれば、特定重要分野については、2級レベルの問題を同時にマスターすることである。

3. 第三に、今までは、民法・会社法のみで、軽く合格できた。現在もその傾向は存在するが、若干特別法のウエイトが上がってきている。従って、特に、知的財産権と消費者保護法、独占禁止法については力を入れる必要がある。

2. 2 級の傾向と対策

(1) 出題形式

2 級の出題形式は単純である。五肢択一問題が40題出題される。前半の20問の配点は1問あたり3点であり、後半の20問の配点は、1問あたり2点である。

前半20問は、後半20問と比較すると、1問あたりの文章が長く、若干難易度が高い傾向にある。

(2) 傾向

1. 前回(第25回試験)は、簡単であったが、今回は、少しだけ難しくなった。今回の試験は、見かけ上はかなり難しく思えるが、実際は少しだけしか難しくなっていない。

2. 第26回試験が少しだけ難しくなった原因は以下のとおりである。

①公式テキストに載っていない肢が少数出題されたが、決定肢となる肢は、簡単であった。

②第25回試験と比較すると問題文が少しだけ長くなった。

3. 個人的には第25回試験は、例外的であると思われる。従って、第26回試験は、第25回試験よりは難しくなったわけだが、この傾向はしばらく続くのではないかと考えている。従って、第27回試験は、また、少しは難しくなるものと思われる。

(3) 対策

1. まず、一番有効な対策は、基礎知識を確実にマスターすることである。こまかな知識に泥濘せず、基礎知識を充実させることこそが、合格への近道であると確信する。

2. 次に、ひっかけ問題や応用力を試す問題の対策として、問題演習に力を入れることである。

一発合格のための対策

1. 3 級の場合

3 級の場合、若干の難易度が上昇しているが、それ程特殊な対策は必要ない。基礎知識をマスターすれば、ほとんどの人は一発合格できるはずである。従って、以下の点に配慮して、学習すれば十分である。



受験対策の P o i n t

- ①出題可能性の高い分野である民法・会社法に力をいれて学習する。
- ②2 級の試験対策も視野にいて、3 級学習段階で、基礎知識を完全にマスターする。

ここまでは、3 級のみ受験の人も、3・2 級同時受験の人も、押えるべきポイントであるが、3・2 級同時受験の人は更に、以下の点にも注意する必要がある。

- ③3・2 級同時受験の人は、3 級については、満点を狙う勉強をすべきである。

2 級では、3 級と比較すると、かなり難度が高い知識が出題される。従って、3 級程度の基礎知識は完璧にしておかないと、2 級を学習する際の負担が非常に大きくなる（負担の適正配分のため）。

2. 2 級の場合

2 級の場合、基本的には、以下の点に配慮して学習すべきである。



受験対策の P o i n t

① 3 級の知識を完全にマスターした上で、細かい知識をマスターする。←この部分は比較的難しい出題が多い！

特に、合否を分ける民法・会社法では、応用問題が出題される。

また、2 級の公式テキストには記載されていないが 3 級の公式テキストには記載されている知識が、ほぼ毎回 1～2 題は出題されている。

② 2 級で新たに学習する分野について知識を入れる。←この部分は比較的簡単な出題が多い！

③ 出題可能性の高い分野については弱点を作らない。

以上の点を踏まえた上で、更に注意することは、満点を狙わないということである。確かに、2 級の場合、難易度は上昇しているが、しよせん、70 点をとれば、合格できる試験である。2 級の出題数は 40 問であるが、配点は前半は 3 点、後半は 2 点である。従って、10 題～15 題間違っても、合格できる。

難易度の高い問題に泥濘せず、基礎知識に関する問題を確実に取れば、必ず合格できる。

以上